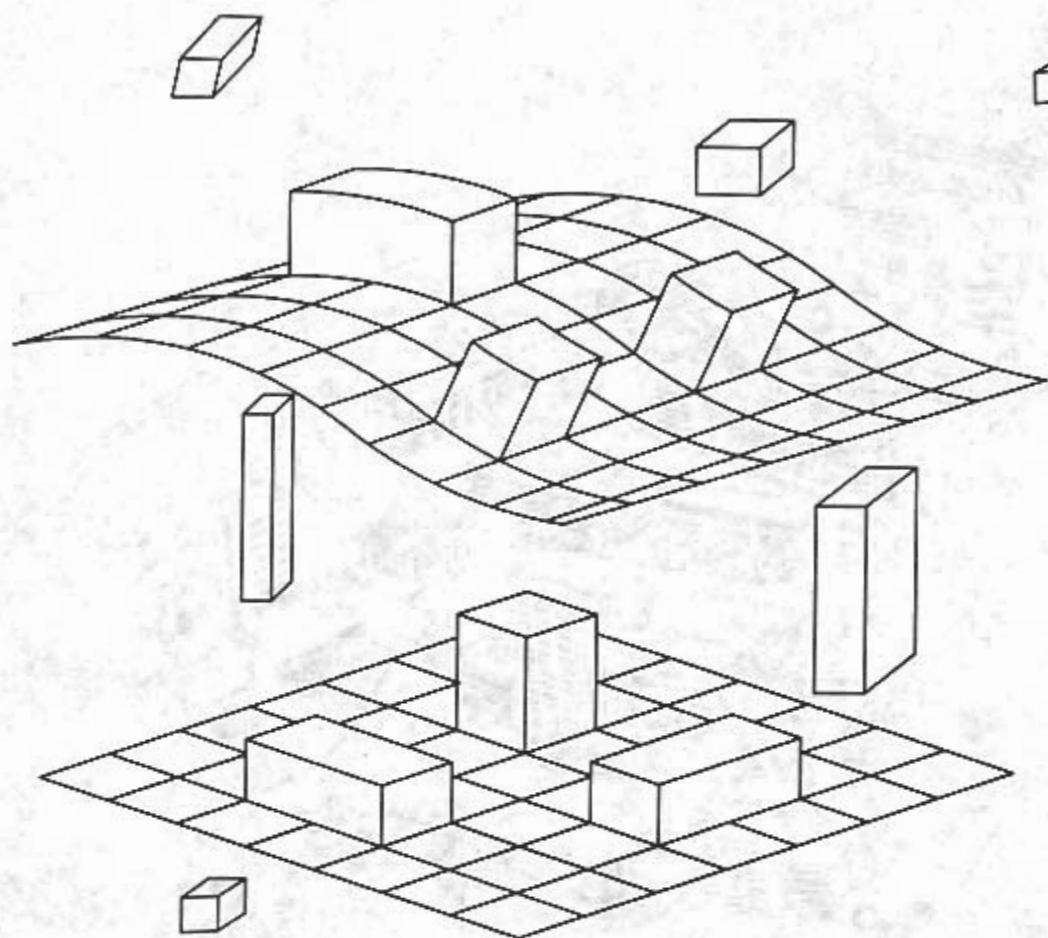


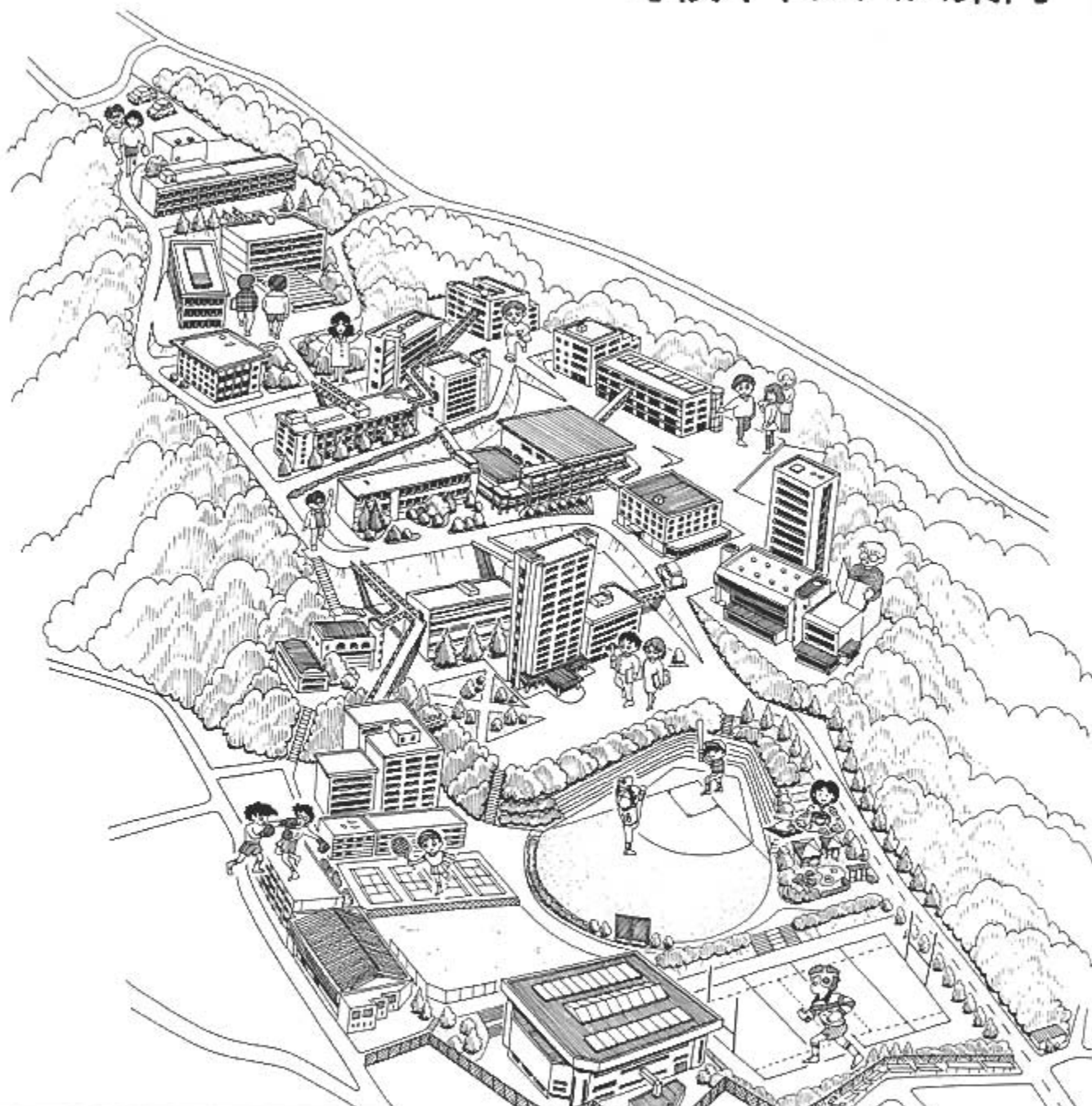
NO. **21**
平成6年度版



ITSUMIKAI

広島工業大学建築学科同窓会.....五三會

母校キャンパス案内



工学部

- 電子工学科……新1号館
- 電気工学科……新10号館
- 機械工学科……6号館
- 土木工学科……新2号館
- 建築学科……新3号館
- 経営工学科……新4号館

環境学部

- 環境デザイン学科……新3号館
- 電算センター……情報センター1F
- 工作センター……8号館
- 総合研究所……11号館
- 〈大学事務局……本館〉

目 次

ご挨拶	1
記念事業経過報告	2
未来への記憶(第20回記念コンペ)・第21回コンペ案内	3
改組転換	5
記念事業実行委員会組織案内	7
五三会収支決算報告	8
1993年度卒業研究テーマ	9
五三会会則	11
教員及び非常勤講師名簿	13
第26回総会のお知らせ	14

ご挨拶

五三會會長 三 上 明 夫

会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。経済状況の厳しき折、各分野にて、一層の激務を強いられながらも、持ち前の積極性で取り組んでおられる事と推察致しております。

今回、会誌21号は、(既報しておりますが)“建築学科創立30周年・同窓会五三会創立25周年記念として、記念設計競技(平成5年10月11日発表)・記念誌・卒業生名簿(平成6年7月発行)祝賀会(平成6年5月21日)の四事業を行うべく、記念事業実行委員会(委員長・椋代仁朗先生)を、先生方と卒業生との合同組織で作り、現在、鋭意進めております。”この内容を、五三会正会員(会則の項参照)のみならず、広く建築学科卒業生の皆様にお伝えして参加を呼びかけ、より有意義なるものにしたく、我々幹事会で決議致し、工大同窓会と共にお届けすることになりました。

例年に比べて、粗少になっておりますが、記念誌(内容については紹介の項参照)の方で内容を充実致しておりますので、是非共、一冊(寄付金納入者)は、お手元に置いていただくよう我々一同切望しております。最後に申し添えますが、既にご存知かと思いますが建築学科は平成8年の卒業生をもって、大学からその姿を隠しますので、建築学科としての記念誌は、後にも先にも、これ一冊となります。合わせてご理解をいただき、ご参加いただければ、この上無き喜びでございます。

記念事業経過報告

広島工業大学建築学科創立30周年・同窓会五
三会創立25周年記念誌発刊のご案内

- 1 発行時期 1994年7月予定
- 2 掲載内容 建築学科30年、五三会25年の
歩み
- 3 冊子規格 A4版縦 約200ページ
- 4 申込方法 寄付金納入をもって記念誌及
び名簿を贈呈いたします

寄付「1口5,000円」

昭和44～49年卒業生……4口以上

昭和50～54年卒業生……3口以上

昭和55～59年卒業生……2口以上

昭和60年卒業生～……1口以上

記念誌部会では、見て楽しい内容となるよう編集作業に取り組んでいます。

その概要は次のとおりです。心より申込みをお待ちしています。

第1章 広島工業大学

●昭和40年当時の大学の様子

●大学祭の風景 など

第2章 建築学科の歴史

●学科カリキュラムの変遷

●研究室手記

●日本建築学会全国大会風景

●建築学科の改組転換 など

第3章 建築学科の卒業生

●全年度卒業生メッセージ

●就職先職業別分類統計

●職場サークルの紹介

●卒業生の活躍紹介

●親子とも建築学科 など

第4章 五三会の歴史と活動

●五三会の由来

●五三会会誌の変遷

●各種記念講演会

●五三会コンペの歴史

●学生部会の活動紹介 など

第5章 結び

●教員と卒業生による座談会

●祝賀会、記念コンペなど記念事業の紹介
など お楽しみに。

広島工業大学建築学科創立30周年・同窓会五
三会創立25周年記念名簿発刊のご案内

- 1 発行時期 1994年7月予定
- 2 掲載内容 A 年度別名簿
B 50音別名簿
C 地域別名簿
- 3 冊子規格 A4版縦、約200ページ

広島工業大学建築学科創立30周年・同窓会五
三会創立25周年記念祝賀会のご案内

日 時：平成6年5月21日(土曜日)

午後7時～9時

会 場：広島全日空ホテル

〒730 広島市中区中町7番20号

TEL 082-241-1111

会 費：¥10,000

内 容：建築学科創立30周年・五三会創立25
周年にあたり、大学関係者、建築学
科教職員、同窓生、学生代表の皆が
集まり、建築学科、五三会の発展を
共に祝い、親睦をはかる会です。

参 加：参加希望者は、同封の振込用紙で会
費の納入をお願いします。チケット
は、都合により平成6年5月初旬に
お手元に届くように送付しますので、
「払込金受領書」を保管しておい
て下さい。

なお、振込用紙裏面の通信欄には、
必ず「祝賀会会費」とご記入下さい。

※名簿への広告掲載案内

4月10日まで受付、申し込みは同封の振込
用紙をご利用下さい。

6.2cm×8.5cm 2万円

6.2cm×17.5cm 4万円

12.8cm×17.5cm 8万円

26.0cm×17.5cm 16万円

※五三会終身会員募集

6月30日までの申込者には、記念誌、名簿
が贈呈されます。申し込みは同封の振込用紙
をご利用下さい。

広島工業大学建築学科創立30周年・五三会創立25周年記念事業
第20回記念五三会建築設計競技

課題 **未来への記憶**
——被爆建物を考える——

「喜びに変わる瞬間」

平成5年10月11日、第20回記念建築設計競技は、第二次公開審査の時を迎えました。応募する側にとっても、受け入れる側にとっても、今までの努力が喜びに変わる瞬間です。

第20回建築設計競技は、「未来への記憶—被爆建物を考える—」と課題の基に、「広島工業大学建築学科創立30周年・五三会創立25周年記念事業」の一環として、第19・20回合併という形態で企画実行され、審査形態は前回と異なり、広島県内に建築学科を有する四大学一高専の先生方1名づつと、五三会から1名の計6名の審査員による、二段階公開審査の形態をとりました。

蓋を開けてみると、平成5年8月2日の締切には、広島大学5点、近畿大学4点、呉工業高等専門学校3点、広島大学大学院3点、広島工業大学10点、呉工業高等専門学校卒業生2点、広島工業大学卒業生1点、の計35作品(49名)もの力作が寄せられました。

第二次公開審査は、その力作の中から平成5年8月28日に行われました第一次公開審査を通過した12作品の代表者11名(欠席1名)による、スライド、OHP、及び音響を駆使してのプレゼンテーション(1作品3分)に始まり、審査員との質疑応答ディスカッションを経て別記の通り各賞が決定されました。会場には全応募作品が展示され、応募者を含め約80人の見守りの中での公正かつ厳正な審査であったことを合わせて報告致します。

なお、末尾では御座いますが、多くの力作を寄せていただきました応募者の皆様、ご多忙の中快く審査を引き受けていただきました審査員の先生方、並びに本設計競技をバック

アップして頂いた記念事業実行委員会の皆様及び、スポンサー企業各位の皆様方に深く感謝致します。

第20回記念五三会建築設計競技実行委員会
委員長 梶山孝之

審査結果

優秀 陽山秀一朗・徳永英治・西元淑恵
岩本充正・網干徹 (近畿大学)

優秀 ニシオミチアキ+Archi-Holic
(広島大学大学院)

優秀 小島浩二・小林仁志・津久田壮一
(近畿大学)

優良 黒瀬尚範(広島工業大学)

優良 橋本貴(広島工業大学)

優良 砂本文彦(豊橋技術科学大学)

佳作 加藤潤一(広島工業大学)

佳作 青原真二(広島工業大学)

佳作 高田憲一郎(広島工業大学研究生)

佳作 早水文子(広島工業大学)

佳作 坂田晃一(広島大学大学院)

佳作 上村宏紀(広島大学大学院)

特別賞 木下雅史(広島大学)

特別賞 平賀直樹(広島大学)

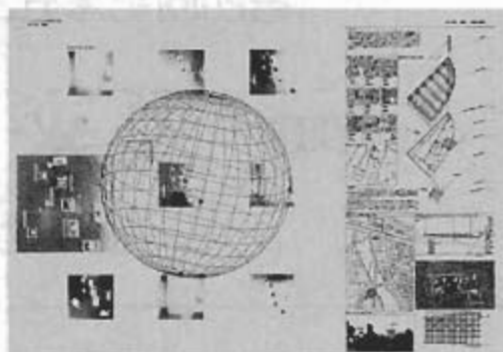
特別賞 寄能恵美・辻かおり

(呉工業高等専門学校)



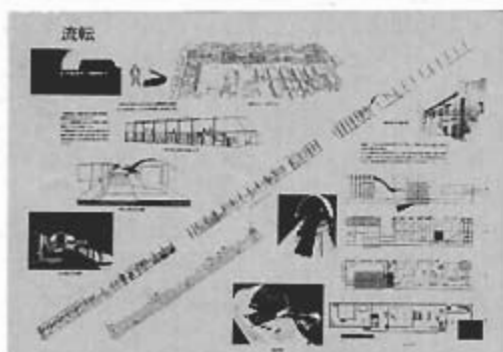
優秀

陽山秀一朗・徳永 英治
西元 淑恵・岩本 充正
網干 徹



優秀

ニシオミチアキ+Archi-Holic



優秀

小島 浩二・小林 仁志・津久田社一



第二次審査風景

第21回五三会建築設計競技のご案内

五三会建築設計競技も回を重ね、今回で21回を数えることとなりました。20回を一つの節目とすれば、21回は新たなスタートを迎えるの第一歩、実行委員一同気を引き締めて事業に望む心構えで、より魅力あるコンペを企画して行きたいと考えております。

さて、今回は、通常の前規模に戻ってのコンペとなりますが、第20回で試みた公開審査を一部継承して、プレゼンテーション無し

で審査過程のみを公開する形態を思い描いております。また、四大学一高専間の交流を図る上から、審査員を再び、広島大学教授の小原先生にお願いしております。具体的な応募要項、並びに、課題の発表は4月中旬にポスターにてお知らせする予定でございますので、20回同様、多数のご応募をお願い申し上げます。

改組転換

建築学科
ENGINEERING系

DEPT. OF
CIVIL
ENGINEERING
土木工学科

URBAN ENGINEERING COURSE
都市工学コース
ARCHITECTURAL ENGINEERING COURSE
建築工学コース

都市機能から人間の快適な生活までトータルに考え、土木と建築の境界分野にも対応を可能にする。

◆土木工学分野について

土木工学は、道路、橋梁、鉄道、河川堤防、ダム、トンネル、港湾、空港、上下水道など、社会の基盤となる構造物の計画・設計・施工に関わる技術を根底から支える重要な学問領域であり、長い伝統を持つと同時に、コンピュータによる情報処理や制御技術などの技術革新を反映して、近年目ざましく発展しつつある分野です。

◆学科概要

都市や地域に関わるさまざまな問題が顕在化してきた現在のニーズに 대응するため、本学科では、平成5年度から、都市交通計画、都市防災システム、さらに、建築工学の構造系および材料系の分野を加えてカリキュラムを強化し、従来の土木と建築にまたがる領域まで対応可能な学科にしました。

「都市工学コース」においては、様々な社会・経済活動の舞台となる都市空間を、安全性・合理性・快適性などあらゆる面で満足ゆくものに構築するには、どのような施設をどのように設計し配置すればよいかを常に基本に考え、設計・施工に必要なハード部分の技術と、施設計画に必要なソフトな能力とをバランス良く身につけることができるように配慮しています。

「建築工学コース」では、人間性豊かな都市像を考えると共に、快適で充実した人間生活空間を提供できる建築技術者を養成する教育を行うために、都市工学コースと共通の学科目に加えて、建築計画や建築構造設計などの科目を設けています。

各専門科目と共に、数学、物理、情報処理技術さらには豊かな人間性を育む教養科目を学び、修得することにより、諸君は卒業後、一級施工管理技師、一級建築士、測量士などの資格を取得し、誇りを持って社会に貢献することができる十分な基礎学力を得ることができます。

平成5年度カリキュラム一覧

●国語学	●基礎電気回路	●建築計画原論
●倫理学	●建設工学ゼミナールⅠ	●建築計画各論Ⅰ
●哲学	●建設工学ゼミナールⅡ	●建築計画各論Ⅱ
●歴史学	●構造力学Ⅰ	●建築設備
●心理学	●構造力学Ⅱ	●建築史概論
●芸術	●構造力学Ⅲ	●建築法規
●経済学	●構造力学Ⅳ	●建築構造設計Ⅰ
●社会学	●構造力学Ⅴ	●建築構造設計Ⅱ
●国際社会論	●振動解析学	●建築構造設計Ⅲ
●法学(含憲法)	●数値計画	●建築構造設計Ⅳ
●経営学	●情報処理Ⅰ	●建築構造設計Ⅴ
●化学	●情報処理Ⅱ	●塑性解析
●地球科学	●情報処理Ⅲ	●都市/地域計画学Ⅰ
●統計学	●建設CAD概論	●都市/地域計画学Ⅱ
●科学史	●建設地質学	●都市防災システムⅠ
●総合講義	●測量学Ⅰ	●都市防災システムⅡ
●人権論	●測量学Ⅱ	●都市情報ネットワーク
●英語Ⅰa	●建設材料科学	●テーマ別計画
●英語Ⅰb	●コンクリート工学Ⅰ	●建設施工システムⅠ
●英語Ⅱ	●コンクリート工学Ⅱ	●建設施工システムⅡ
●英語Ⅲ	●鋼構造工学Ⅰ	●施工マネージメントⅠ
●英会話	●鋼構造工学Ⅱ	●施工マネージメントⅡ
●ドイツ語Ⅰ	●土質力学Ⅰ	●建設法規
●ドイツ語Ⅱ	●土質力学Ⅱ	●建設工学演習Ⅰ
●中国語	●土質力学Ⅲ	●建設工学演習Ⅱ
●保健体育理論	●鉄筋コンクリート工学	●建設工学演習Ⅲ
●体育実技	●基礎工学	●建設工学演習Ⅳ
●微積分Ⅰ	●都市基盤施設概論	●建設工学実験Ⅰ
●微積分Ⅱ	●水理学Ⅰ	●建設工学実験Ⅱ
●線形代数	●水理学Ⅱ	●測量実習Ⅰ
●力学	●水理学Ⅲ	●測量実習Ⅱ
●応用数学A	●河川工学	●設計製図法
●応用数学B	●海洋/海岸工学	●設計製図Ⅰ
●応用数学C	●上下水道工学	●設計製図Ⅱ
●応用数学D	●水質工学	●設計製図Ⅲ
●物理学実験B	●交通計画Ⅰ	●火災学および演習
●計算機演習	●交通計画Ⅱ	●卒業研究
●物理化学	●道路工学	●職業指導
●電磁気学概論	●橋梁工学Ⅰ	
	●橋梁工学Ⅱ	
	●建築施設概論	

(平成6年度カリキュラムは検討中)

改組転換

建築学科
DESIGN系

DEPT. OF
ENVIRONMENTAL
DESIGN

環境デザイン学科

建築学に環境の知識を兼ね備えたプランナー的デザイナーの養成。

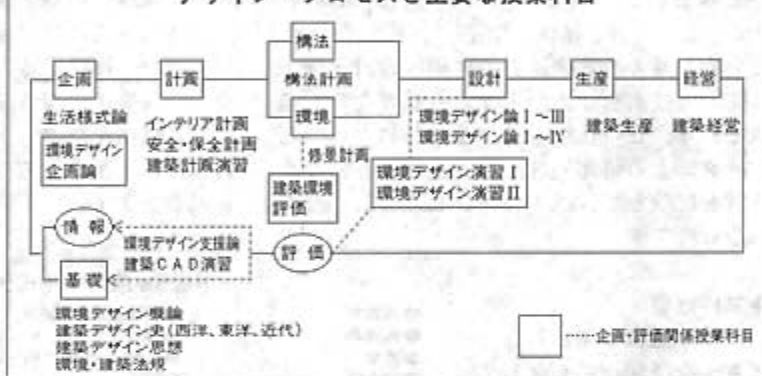
本学科は学部の設置理念のもとに、建築を中心とする関連領域を対象として、快適な環境の維持という立場から物事を考察できる能力を持った人材養成を行うものです。つまり、これまでの芸術性に力点を置いたデザイナーの養成だけでなく、室内環境はもとより建築物を含む住環境、地区・地域環境、都市環境などまで拡大した範囲での企画、計画、設計技術に重点を置く総合力のあるプランナー、コーディネーターなどの人材養成により力を注ぐというものです。

教養科目では国際化、高度情報化、価値観の多様化する流動的な社会状況の中で、自然と人間との調和ある社会を創出できる人間形成教育を目指しています。

専門教養科目では特に環境に関連する科目、専門科目履修上の有力な手段となる情報処理技術などの情報関連科目を豊富に配置して、学習上の必要な基礎知識を養います。そして専門科目では『デザイン・プロセスと主要な授業科目』の図にみられるように「企画」と「評価」の2つを大きな特徴として、その関連科目としての「環境デザイン企画論」、「建築環境評価」、「環境デザイン演習」(設計作品

に対する評価づけの訓練を行う)などが他大学類似学科にない大きな特色といえます。卒業後の受験資格には1級建築士、2級建築士、木造建築士およびインテリアプランナーなどがあります。

デザイン・プロセスと主要な授業科目



平成5年度カリキュラム一覧

- | | | |
|-------------|----------------|------------|
| ●宗教学 | ●人間科学 | ●建築環境工学Ⅰ |
| ●哲学 | ●色彩科学 | ●建築環境工学Ⅱ |
| ●歴史学 | ●代数学 | ●建築環境評価 |
| ●法学(含憲法) | ●幾何学 | ●建築設備学要論 |
| ●経済学 | ●解析学 | ●環境計画演習Ⅰ |
| ●経営学 | ●確率論 | ●環境計画演習Ⅱ |
| ●コミュニケーション論 | ●統計学 | ●環境デザイン企画論 |
| ●日本文化論 | ●計算機システム概論 | ●環境デザイン論Ⅰ |
| ●言語 | ●システム設計 | ●環境デザイン論Ⅱ |
| ●数学概論 | ●数値計算法 | ●環境デザイン論Ⅲ |
| ●地球物理学 | ●情報構造とアルゴリズム設計 | ●建築生産 |
| ●地球化学 | ●コンピュータアーキテクチャ | ●建築経営 |
| ●生物学 | ●プログラム設計 | ●環境デザイン支援論 |
| ●地学 | ●プログラミング言語 | ●環境デザイン演習Ⅰ |
| ●体育実技 | ●プログラミング演習 | ●環境デザイン演習Ⅱ |
| ●英会話Ⅰ | ●環境デザイン概論 | ●構法計画Ⅰ |
| ●英会話Ⅱ | ●西洋建築デザイン史 | ●構法計画Ⅱ |
| ●英会話Ⅲ | ●東洋建築デザイン史 | ●構造力学Ⅰ |
| ●英会話Ⅳ | ●近代建築デザイン史 | ●構造力学Ⅱ |
| ●科学技術英語Ⅰ | ●建築デザイン思潮 | ●建築構造設計概論 |
| ●科学技術英語Ⅱ | ●環境・建築法規 | ●建築構造演習 |
| ●科学技術英語Ⅲ | ●建築意匠実習 | ●設計製図Ⅰ |
| ●科学技術英語Ⅳ | ●生活様式論 | ●設計製図Ⅱ |
| ●時事英語 | ●住宅計画論 | ●環境デザイン実習Ⅰ |
| ●TOEFL講座 | ●施設計画論 | ●環境デザイン実習Ⅱ |
| ●総合講義 | ●建築集合論 | ●環境デザイン実習Ⅲ |
| ●環境理念概論 | ●インテリア計画Ⅰ | ●環境デザイン実習Ⅳ |
| ●環境生態論 | ●インテリア計画Ⅱ | ●造形演習 |
| ●知識処理論 | ●安全・保全計画 | ●建築CAD演習 |
| ●情報デザイン論 | ●建築計画演習 | ●ゼミナール |
| ●環境情報システム | ●修景計画 | ●特別講義 |
| ●地図情報論 | ●都市・地域計画 | ●卒業研究 |
| ●科学技術史 | | |

広島工大建築学科記念事業実行委員会組織案内

これは平成5年9月現在のものです。これ以降相当数増えています。

◎印：各部会責任者

	氏名	勤務先		氏名	勤務先	
委員長	椋代 仁朗	広島工業大学 〒731-51 広島市佐伯区三宅2-1-1	祝賀会	◎篠原 道正	広島工業大学	
	副委員長	三上 明夫		KAZI建築設計工房	清田 誠良	広島工業大学
		坂田 泉		広島工業大学	◎秋本 孝	広島県
丹羽 博亨		広島工業大学		柳田 光雄	松本建設	
総務	◎佐藤 立美	広島工業大学		大松 恒一	青木建設	
	高松 隆夫	広島工業大学		永井 規明	日本国土開発㈱広島支店	
	菅原 辰幸	広島工業大学		下 健蔵	広島県	
	大林 眞	広島工業大学		中島 伸夫	L A T環境設計事務所	
	知野 吉春	広島市		松田 四朗	呉市	
	村上 憲弘	青木設計事務所		コンベ	◎佐藤 洋	広島工業大学
	森田 洋生	広島市	水田 一征		広島工業大学	
	下田 卓夫	アーバン・プレーン	◎梶山 孝之		梶山建築設計室	
	松本 孝志	広島市	西原 淳夫		西原建築事務所	
	記念誌	◎丹羽 博亨	前掲		盛岡 隆治	由設計事務所
中尾 好昭		広島工業大学	藤井 秀幸		浅葱建築工房	
森保 洋之		広島工業大学	岡田 英治		アトリエUD	
◎中塚 晴夫		A A設計	名簿		◎手越 義昭	広島工業大学
金川 豊		広島市			天満 祥弥	広島工業大学
藤井 洋		大建設広島事務所			西川 加嗣	広島工業大学
松田 智仁		広島市		◎青木 能典	青木建築設計事務所	
本山 滋子		熊谷組広島支店		上之 博文	L A T環境設計事務所	
大畠 耕司		エイエスシビルコンサルタント		衣笠 圭一	近代設計コンサルタント	
金堀 一郎		住宅デザイン研究所		牟田 道行	牟田建築設計	
峰本 美佐	自営	加古山 茂		鳥屋		
松本 敬子	松本組	田中 義登		都市建築研究所		
内本 康雄	広島工業大学	村上 徹		村上徹建築事務所		

五三会収支決算報告

平成4年度収支決算報告

◆収入の部		(単位 円)
繰越金	4,126,344	
新会員会費	580,000	
広告収入	870,000	
雑収入 (利息)	3,106	
合 計	5,579,450	

◆支出の部		(単位 円)
印刷費	567,015	
郵送費	182,539	
会議費	146,449	
銀行送料	0	
郵便局振替手数料	6,720	
コンベア費	292,199	
在学生援助費	0	
バイト費	29,000	
消耗品雑費	0	
記念事業経費	200,000	
雑費	22,787	
繰越金	4,132,741	
合 計	5,579,450	

平成5年度収支予算

◆収入の部		(単位 円)	
科目	小科目	金額	摘要
全費収入		600,000	60名×10,000
	新会員会費	600,000	
活動収入		1,020,000	
	広告料	1,020,000	
雑収入		6,000	
	利子収入	6,000	
積立金取崩収入		0	
	積立金取崩収入	0	
繰越金		4,132,741	
	終身会費基金	4,132,741	
合 計		5,758,741	

◆支出の部		(単位 円)	
科目	小科目	金額	摘要
管理費		470,000	
	総会費	100,000	
	会議費	150,000	
	バイト費	50,000	
	消耗品費	50,000	
	備品購入費	50,000	
	印刷費	40,000	
	通信費	20,000	
	雑費	10,000	
活動費		1,170,000	
	会報発刊費	920,000	会報発刊費内訳
	学術文化費	50,000	印刷費650,000
	入会者歓迎費	200,000	郵送費270,000 (900部×300)
予備費		600,000	
	予備費	200,000	学生会会助成金
		400,000	記念事業経費
積立金		2,750,000	
	積立金	2,750,000	
繰越金		768,741	
	繰越金	768,741	
合 計		5,758,741	

(1993年度 卒業研究テーマ一覧)

指導教員 藤原 道正

- 長田 士郎 緯度と海拔によるTAC温度の予測方法(日本海側の場合)
 大田 英治 緯度と海拔によるTAC温度の予測方法(太平洋側の場合)
 山本 秀則 緯度と海拔によるTAC温度の予測方法(北海道の場合)
 吉本 満浩 スポーツ時の代謝熱量の変動の予測方法に関する研究
 山本 哲 生産施設の作業者の代謝熱量に関する研究
 小西 真一 作業者の代謝熱量の機械効率に関する研究
 山崎 雅美 作業に含まれる各種動作の代謝熱量の整備
 平本 裕司 代謝熱量の予測システムの構成に関する研究
 石川 彩 高断熱高気密住宅の熱環境に関する研究
 川本 晃司 高断熱高気密住宅の温熱環境に関する研究

指導教員 椋代 仁朗

- 指 針 複数の断面欠損部をもつ鋼板の塑性変形能力に関する実験的研究
 森 重紀

指導教員 椋代 仁朗・高松 隆夫

- 三好 一弘 繰返し荷重を受ける角形鋼管柱、H形鋼はり接合部の弾塑性変形性状に関する実験的研究

指導教員 中尾 好昭

- 佐衛田 浩 建物の弾塑性構造解析に関する研究
 澤田 敬 現場溶接自動化に関する研究
 住木 秀典 地盤の衝撃振動に関する研究
 都田 陽 平面的広がり考慮した堤状地盤・基礎系の振動解析
 屋敷 悟 セルフシールドアーク溶接法による立向き上進突合溶接法に関する研究
 安元 健二 高強度コンクリートの調査に関する研究
 山口健二郎 RC床の衝撃振動実験・解析

指導教員 佐藤 立美

- 林 勉 コンクリート強度の異なるRC有孔梁の剪断耐力に関する実験的研究
 藤本 弘樹 鉄筋コンクリート有孔梁の開口補強金物の形状と補強効果に関する研究
 星野 徹也 部分積載荷重を受ける木造床の変形性状に関する研究
 増木 宗之 既存高層建築物の構造設計手法について
 柳橋勝太郎
 福本 努
 田中 一成

指導教員 丹羽 博亨

- 伊達 邦彦 論文：京都曼殊院、毘沙門堂の建築と伽藍配置に関する研究
 論文：長保寺の建築と伽藍配置に関する研究
 中村健太郎 論文：国東半島石仏の里に関する研究
 設計：みなとまちの景観計画
 中村 秀樹 論文：国東半島石仏の里に関する研究
 橋本 広宣 論文：京都勝林院、二尊院の建築と伽藍配置に関する研究
 波多野克志 設計：西部丘陵都市、A CITYにおける小学校の設計
 東 昌男 論文：大山寺の建築と伽藍配置に関する研究
 藤澤 博司 論文：京都三千年院、米迎院の建築と伽藍配置に関する研究
 前原 信之 論文：京都妙法院、青蓮院の建築と伽藍配置に関する研究
 松田 和宏 論文：京都極楽寺の建築と伽藍配置に関する研究
 三井 健治 論文：京都極楽寺の建築と伽藍配置に関する研究
 奥野 大介 設計：ショッピングセンター
 川手 敏弘

指導教員 水田 一征

- 池田 薫 設計：COME COME STATION (カム・カム・ステーション)
 沖田 憲知 設計：FUTURE OF STATION
 片山 崇 設計：重なる想い出
 金澤 正武 設計：WATERHALL 322

河本 留美 設計：Forest Park

- 田中美津子 論文：間(ま)に関する考察—ギョウター・ニチケに準じて—
 中村 智士 設計：かわらないまち
 早水 文子 設計：シャボン玉の中を歩いて
 山之内奈美 設計：対話空間 (集合住宅)
 木下 真 設計：
 藤野 浩 設計：はっけよいのこった

指導教員 森保 洋之

- 平山 智都 論文：室内空間の視覚的把握に関する研究—独立住宅のLD空間について—
 論文：建築形態の視覚的把握に関する研究—集合住宅における平面計画と立面計画の関係について—
 論文：対社会性よりみた住宅計画に関する研究
 由利 淳 一戸建住宅の作品分析—
 論文：広島基町高層住宅の実態と今後の計画条件
 西田 義賢 論文：広島都心部における生活基盤系整備に関する基礎的研究
 江角 明美 論文：広島県における住宅需要に関する調査・分析
 徳丸 和昭 設計：神奈備—かんなび—
 宮崎 淑子 設計：STRUCTURES
 三木 泰洋 設計：—NEO—
 幸本 和恵 設計：Nothing comes out of nothing
 加藤 潤一

指導教員 坂田 稟

- 芋里川 稔 鉄山長屋 (山県郡加計町)に関する考察
 梶原 隆夫 木造建築のうだつ屋根について
 神山 幸久 神社建築の地域性 (仮称芸備造)に関する考察
 やじうま体育館 (設計)
 神田亜由子 一、大竹市に建つスポーツ複合施設—
 小林 満 広島県双三郎の民家に関する考察
 大野町の伝統的環境の整備に関する考察
 住野 弘 一歴史の道と民家—
 高本 淳 甘南備神社に関する建築的考察
 波多 太一 酒蔵の建築的考察 (西条町を中心に)
 岡田 尚之 Ground Cover Plants (設計)
 瀬戸内の島の環境と景観 (蒲刈町)
 植本 数也 Rurban (設計)
 一蒲刈町の近未来整備計画案—
 鈴木 隆司 蒲刈町の環境整備に関する考察
 兎島 克也 人形浄瑠璃舞台の復元的考察
 荒谷 伸一 奥の森 (設計)
 一瀬戸内海再考—

指導教員 天満 祥弥

- 西田 佳世 労働環境からみた建設業
 松島 聡 地方都市における建築外装の色彩調査
 金輪島マリ 金輪島マリミュージアム—アミューズメントスペースとしてのウォーターフロント計画—
 水野 忠 展望—健康で明るい21世紀へ—
 山崎 敏生 「広島ビッグアリーナ」—スポーツと文化を愛する人々の空間—
 遊佐 治郎 文化の中心を目指して—総合文化センター—
 藤坂 卓也 芸術文化センター—人と芸術との接点—
 白銀 邦彦 箱—その中を活性化させるもの—
 杉原 豊実 建築外装の劣化の調査
 松村 浩二 養護老人ホームの計画—未来を見つめて今—
 土井 智之

指導教員 高松 隆夫

- 大西 昭 繰返し荷重を受ける角形鋼管柱・H形鋼はり接合部の弾塑性変形性状に関する実験的研究
 畑野 徹

貞東 聖治 柱はり接合部の変形を考慮した骨組構造解析法に関する研究
立石 直人 降伏線理論による角形鋼管柱・H形鋼はり接合部の耐力評価に関する研究
玉井 秀佳 合成ばりを有する角形鋼管柱・H形鋼はり接合部の復元力特性に関する実験的研究
本名 請吾 有孔ばりの最大耐力に及ぼす孔径の影響に関する研究

指導教員 佐藤 洋

菅原 真二 自己形成の場合-逃れられない枠組のなかで
井口 善博 自己爆発を誘発する空間への試案
小川 友清 意味生成空間-あまりにも建築的-
河端 章 自分自身への解放の場合-特別養護老人ホーム
栗原 晋 浮遊-場所性からの解放-
立石 実佳 人間の五感を接発的客間-暗内から棺
津高 嘉隆 NODE-都市と公園-
築城 久明 感興客間-市民ホール
西村 栄記 幻想の客間-広島市に...
百合本 稚子 重層する客間に向けて-津和野の場合

指導教員 菅原 辰幸

阿武 茂樹 ショッピングモールの魅力に対する米街者の意識に関する調査研究
石崎 正臣 公園の利用実態と評価のされ方
北村 欣幸 五日市中央通り街並み整備計画-駐車施設の改善整備-
森岡 福美枝 駅前広場の空間構成に関する研究
小池 克彦 モールとショッピングセンターの設計
田尾 日出人 商店街における歩行者空間の整備計画
徳田 幹 児童公園の利用のされ方と評価
松浦 勝利 公園の緑の量・質に関する研究
吉崎 正明 商店街における駐輪施設に関する研究
堂野崎 誠 宇品港ターミナルビル並びに周辺施設の設計
古上 幸治 アトリウムをもつ総合レジャーセンターの設計

指導教員 西川 加禰

伊藤 恵司 (論文) ワンルームマンションの設計計画に関する研究
則本 浩孝
藤原 弘幸
尾津 光男 (論文) シルバーハウジングの設計計画に関する研究
山田 知志
上吉 雅江 (設計) ORANJE VILLE
齋原 千代 (設計) HOUSING THE ELDERLY
久保 賢一 (設計) THE PLANET
馬場 洋子 (設計) AQUA SQUARE

指導教員 中村 隆夫

前田 義徳 五日市スポーツアイランド
松本 作 広島カーブを強くする広島ドーム
松下 作 五日市港湾における環境整備計画
向井 正重 自然と眺望を楽しむ宿泊施設
古庄 範行 都市の中の湖
島 昭憲 -自然のメッセージ発信源、江津湖~
区民集会所と一体化した排水処理施設
Ecological Clean Water Core

指導教員 野添 久視

岡本 徹 成層地盤における杭基礎の振動特性に関する研究
末田 健二 地盤-複数基礎系における振動特性に関する研究
西森 慶 杭-基礎系の振動特性に関する研究

指導教員 廣川 協一

竹内 政人 広島県における老人保健施設に関する基礎的研究

指導教員 清田 誠良

井上 和彦 床スラブの遮音特性に関する基本的研究
黒瀬 武夫

湯上 剛 9119号台風の強風による住宅屋根面被害に関する研究 (特に広島市佐伯区を対象として)
沖盛 隆志
吉村 昌城
井上 賢司
今本 致博 開口部を有する建築物の周辺気流分布に関する実験的研究 (前方に建築物が建つ場合を対象として)
上垣内 謙太郎
山本 真市 開口部を有する建築物の周辺気流に関する実験的研究 (単体建築物を対象として)
鈴木 香次 開口部を有する建築物の周辺気流に関する実験的研究 (周辺に建築物が建つ場合を対象として)
門前 理佐
坂井 明美

指導教員 手越 義昭

久保 賢 中国地方における主要河川の河口付近から採取した細骨材の性質の比較調査
都市を流れる河川の河口付近から採取した細骨材の塩分含有率、有機不純物の調査
中筋 公司 -河口付近に大都市がある河川の比較-
木藪 大輔 コンピュータリテラシーがCADを用いた建築設計に及ぼす影響に関する調査研究
生成検証法による設計解の提案機能に関する研究
小野 雅生 -RC造における大梁・小梁の構造設計支援を例として-
柴田 直子 公理的設計論に生成検証法を組み合わせた杭設計支援システムに関する研究-杭基礎アースドリル工法を例として-
柄本由美子 意匠設計における思考支援の研究
野城 武史 -ワイマールパウハウス校長室のインテリア設計を例として-
SKETCHPADを用いた建築設計作図支援に関する研究
西田 智美 生成検証法を用いた意匠設計支援システムに関する研究

広島工業大学建築学科同窓会 「五三会」会則

第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。
- (1) 集 会
 - (2) 会員相互の連絡並びに共助に関する事
 - (3) 会誌及び会員名簿の発刊
 - (4) 母校建築学科に対する精神的、物質的援助
 - (5) その他本会の目的達成に必要な事

第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以って組織する。
- (1) 正 会 員 広島工業大学建築学科卒業生のうち会費を納入した者
 - (2) 準 会 員 正会員以外の広島工業大学建築学科卒業生
 - (3) 学生会員 広島工業大学建築学科在学学生
 - (4) 特別会員 母校職員及び旧職員
 - (5) 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者

第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----|
| (1) 名誉会長 | 置くことができる | (2) 会 長 | 1 名 |
| (3) 副 会 長 | 2 名 | (4) 会 計 | 2 名 |
| (5) 会計監査 | 2 名 | (6) 幹 事 長 | 1 名 |
| (7) 幹 事 | 若干名 | (8) 書 記 | 2 名 |
| (9) 評 議 員 | 各卒業年度に若干名 | | |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は総会をもって推す。
 - (2) 会長・副会長・幹事・会計・会計監査・書記・評議員は総会で正会員の中から選ぶ。
 - (3) 幹事長は幹事の中から互選する。
 - (4) 幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する。
- 第 8 条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ。
- (1) 会 長 本会を代表し会務を統べる
 - (2) 副 会 長 会長を助け支障がある時は代理する
 - (3) 会 計 会計事務に当る

- (4) 会計監査 会計を監査する
- (5) 幹事長 会務を主宰する
- (6) 幹事 会務を処する
- (7) 書記 書記事務に当る
- (8) 評議員 会務を評議する

第 9 条 役員の任期は一ケ年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

第四章 顧問

第 10 条 この会に顧問若干名をおく
 (1) 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する
 (2) 顧問は会の諮問に応じる

第五章 会議

第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。

第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する。

第 13 条 総会は次のことを決める。
 (1) 会則の変更と改正 (2) 決算及び予算
 (3) 役員改選 (4) その他重要な事

第 14 条 役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める。
 (1) 総会に附議する原案 (2) この会の運営に関する諸事項
 (3) 事業委員会の組織 (4) その他緊急事項の協議

第 15 条 事業委員会は必要に応じて幹事により組織し、第 4 条に掲げる事業についてその事務を処する。

第 16 条 会議の議決は会員の参会者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第六章 会計

第 17 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。
 (1) 会員は入会金と終身会費として、入会時 10,000 円を納入しなければならない。
 (2) 学生会員は在学期間の会費として 3,000 円を納入しなければならない。
 なお、学生会員の会計は本会計より独立させる

第 18 条 その会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

第七章 委任事項

第 19 条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

付 則

終身会費については、昭和 58 年度から施行する。

[広島工業大学建築学科
教員及び非常勤講師名簿]

〔建築学科教職員・専任教職員〕

氏名	住 所	郵便番号	電話番号
椋代 仁朗			
中 尾 好昭			
佐藤 立美			
丹羽 博亨			
水田 一征			
篠原 道正			
森保 洋之			
坂田 泉			
喜久川 政吉			
牛島 賢象			
天満 祥弥			
高松 隆夫			
佐藤 洋幸			
菅原 辰嗣			
西川 加隆夫			
中野 添久親			
廣川 協一			
清川 誠良			
手越 義昭			
大林 真			

〔非常勤講師〕

小野 泰			
入野 忠芳			
有馬 秀宣			
花輪 恒潤			
川田 潤夫			
松本 静			
村上 徹			

[広島工業大学建築学科
教員及び非常勤講師名簿]

[建築学科教職員・専任教職員]

氏 名	住 所	郵便番号	電話番号
椋代 仁 朗			
中 尾 好 昭			
佐 藤 立 美			
丹 羽 博 亨			
水 田 一 征			
藤 原 道 正			
森 保 洋 之			
坂 田 泉			
喜久川 政 吉			
牛 島 賢 象			
天 満 洋 弥			
高 松 隆 大			
佐 藤 洋 幸			
菅 原 辰 幸			
西 川 加 嗣			
中 村 隆 夫			
野 添 久 視			
廣 川 協 一			
清 川 誠 良			
手 越 義 昭			
大 林 真			

[非常勤講師]

小 野 泰
入 野 忠 芳
有 馬 秀 宣
花 輪 恒 潤
川 田 潤 夫
松 本 靜 夫
村 上 徹

第26回(平成6年)総会のお知らせ

日 時 平成6年5月21日(土曜日)

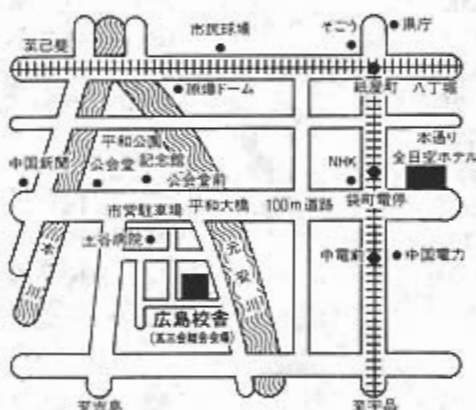
1. 五三会総会……午後5:00
2. 記念祝賀会……午後7:00(全日空ホテル)

場 所 五三会総会 広島市中区中島町5-7鶴学園広島校舎 TEL(082)249-1251代
 記念祝賀会 広島市中区中町7番20号
 全日空ホテル TEL(082)241-1111代

内 容 建築学科同窓生五三会員全員が参加し、建築学科各教職員の参加を求め、五三会活動報告と、会計発表を行ってのち、酒と豪華な料理で、昔話や同業としての話で親睦をはかる。

会 費 10,000円 懇親会は、全日空ホテルへ席を移して行います。

〔 案 内 図 〕



交通機関

- △広島駅より
 広電バス-100米經由空港行き・平和公園下車
 広島バス-吉島営業所行き・平和公園前下車
- △バスセンターより
 市内電車-宇品行き・袋町又は中電前下車
 (100米道路平和橋西詰南へ50m)
- △広島港より
 市内電車-紙屋町經由広島駅行き、又は已斐行き(中電前又は袋町下車100米道路平和橋西詰南へ50m)
- △広島空港より
 広電バス-100米經由広島駅行き・平和公園前下車

「五三会」第21号 編集委員

中塚晴夫・松田智仁

〔連絡先〕

五三会事務局

広島市佐伯区五日市町三宅二丁目1番1号
 広島工業大学建築学科菅原研究室内
 (〒731-51) ☎0829-21-3121代

広島工業大学建築学科同窓会誌
 「五三会」第21号

編集責任者 中塚晴夫
 発行責任者 三上明夫
 企画・製作 ハローデンイン
 発行 平成6年3月24日